海外安全対策情報・令和2年度第4四半期

1. 社会・治安情勢

連邦区(DF)では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年5月以降、各罪種とも発生件数は減少している。これは、商業施設や飲食店等の休業、学校の閉鎖等社会的隔離措置により、街中の人出が減少し、その後、商業施設や飲食店が再開した後も、市民生活がいわゆる「コロナ禍以前」の状態には戻っていないことに起因していると考えられる。

街中での発生件数が多い犯罪について、1月～3月の発生件数を昨年の同時期と比べてみると、路上強盗は 34.7%減(6,618 件→4,328 件)、車上ねらいは 38.5%減(2,445 件→1,503 件)と、いずれも大幅に減少している。

但し、発生件数自体が元々多い犯罪の発生率(10 万人当たり)について、日本と比較すると、殺人は約 15 倍、強制性交等約 17 倍、路上強盗に至っては約 2,455 倍にもなることを忘れてはならない。

また、DF では、人口当たりの犯罪発生率で比較した場合、サンパウロやリオデジャネイロといった犯罪多発地帯である大都市と同等又はそれ以上である。特に、衛星都市及びブラジリア中心部(プラノピロト地区)周辺では、路上強盗のほか、車上ねらい、自動車盗、薬物密売等の犯罪が日常的に発生している。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

連邦区公安局による1月～3月の犯罪統計によれば、連邦区における殺人事件の発生件数は、前年同期比 31.6%減(114 件→78 件)であり、各種強盗事件は、歩行者強盗 34.7%減、住居強盗 12.5%減、自動車強盗 30.8%減と、いずれも前年同期比で減少を記録する等、犯罪発生件数は全体的に減少傾向が継続しているが、依然として幹線道路沿いやショッピングセンター、バスターミナル、バス停等、市民の身近な場所で、各種犯罪が発生している。

特に、財産犯のうち半数以上を占める歩行者強盗は、多くの場合、携帯電話が狙われており、4月に入ってから、日本人も多く居住する閑静な ASA SUL 地区において、模倣けん銃を使用した事件が発生している。路上における携帯電話の使用(いわゆる「歩きスマホ」)は、緊急事態以外では、絶対に避けるべきである。

なお、強盗犯罪の特徴として、殆どのケースでけん銃やナイフ等の凶器が使用されており、抵抗すると生命に危険が及ぶため、「生命の安全を第一」に考えて行動する必要がある。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件の発生は認知していない。

4 誘拐・脅迫事件発生状況
邦人被害は認知していない。

5 日本企業の安全に関わる諸問題
特段の情報はない。